

概説 8 マイコプラズマ感染症

マイコプラズマ基礎的事項

病原体 ; *Mycoplasma pneumoniae*
宿主 ; ヒト
感染経路 ; 飛沫感染
潜伏期 ; 2 ～ 3 週
症状 ; 乾性咳嗽、発熱が主な症状です。
(特に夜間に増悪する頑固な咳が長く続くのが特徴的です)

マイコプラズマ関連検査

1. マイコプラズマ抗体 (IgG&IgM) 検査

a) 目的と方法

マイコプラズマ抗体検査は *Mycoplasma pneumoniae* 感染時に認められる IgG 型および IgM 型特異抗体を測定するものです。マイコプラズマ抗体検査は発症後 7～14 日で陽性化します。また、ペア血清を用いることにより、感染初期を推測することができます。さらに、ペア血清による本検査と IgM 型抗体検査を組み合わせることにより、信頼度の高い感染初期診断が可能となります。検査法には半定量法である粒子凝集反応 (PA) や補体結合法 (CF) があり、PA は CF に比較して高い検出感度を有します。

b) 検査結果の見方【基準値；陰性】

陽性は現在あるいは過去の感染を意味します。陰性は現在の感染を否定することができます。ペア血清を使用した場合の判定は、抗体価が 4 倍以上の上昇を認めた場合を現在の感染と判定します。

c) 検査における注意点

マイコプラズマ抗体は一度感染して産生されると、個人差はあるものの、少なくとも半年、長ければ数年にわたり検出されます。したがって本検査によって抗体が検出されても現在の感染と既往感染の鑑別はできません。

2. マイコプラズマ IgM 型抗体検査

a) 目的と方法

マイコプラズマに感染すると、血液中には IgG 型および IgM 型特異抗体が産生されます。とくに IgM 型抗体は感染の初期に産生されることから、その存在は現在の感染を強く反映します。マイコプラズマ IgM 型抗体検査は発症後 5～10 日で陽性化します。検査法には定性法であるイムノクロマトグラフィー法 (ICA) があります。

b) 検査結果の見方【基準値；陰性】

陽性は現在の感染を意味し、陰性は現在の感染を否定することができます。

c) 検査における注意点

小児におけるマイコプラズマ IgM 型抗体検査は IgG 型抗体検査に比較して、感染初期よ

り早期に陽性化しますが、成人では IgM 型抗体の産生が極めて少なく感染初期にもかかわらず陽性化しない症例もあります。また、小児における IgM 型抗体検査は感染後も陽性が持続する場合もあるので注意が必要です。

3. マイコプラズマ・ニューモニエ DNA

DNA 検査はマイコプラズマの存在を直接反映する最も信頼性の高い方法ですが、検体採取方法により検出率に差が生じるなどの問題も残されています。また、キット化された検査試薬が無いことや、保険適用が認められていないことから、日常検査法としては普及していません。

4. その他：

マイコプラズマ肺炎は五類感染症に分類され、指定医療機関は7日以内に届け出る必要があります。